

# 人口ビジョン

---

## Ⅲ 人口ビジョン

1. 策定の趣旨
2. 人口動態と推移
3. 人口の将来展望

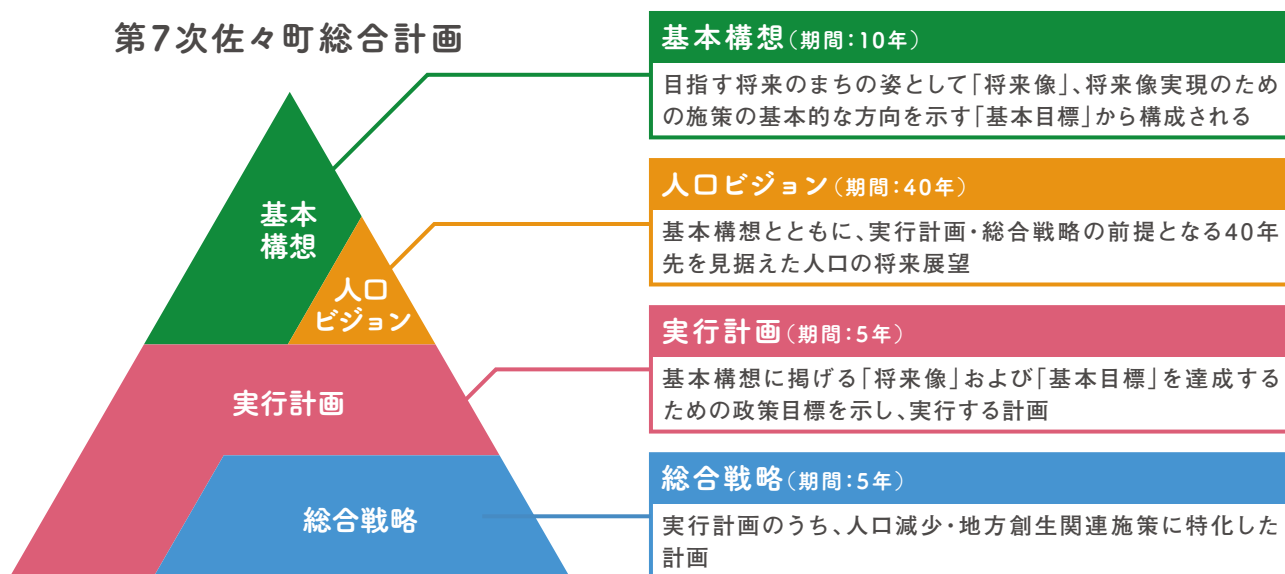
## 1 策定の趣旨

平成26(2014)年11月、「まち・ひと・しごと創生法」が公布・施行され、本町では、平成27(2015)年10月に、「佐々町長期人口ビジョン」を策定するとともに、人口減少及び地方創生関連施策に特化した「佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「第6次佐々町総合計画」とともに一体として推進してきました。

今般、「第2期佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するにあたり、その前提となる、「佐々町長期人口ビジョン」について、改訂を行いました<sup>9</sup>。

<sup>9</sup> 詳細については、資料編P159～187参照。

### 総合計画および総合戦略と人口ビジョンの関係



## 2 人口動態と推移

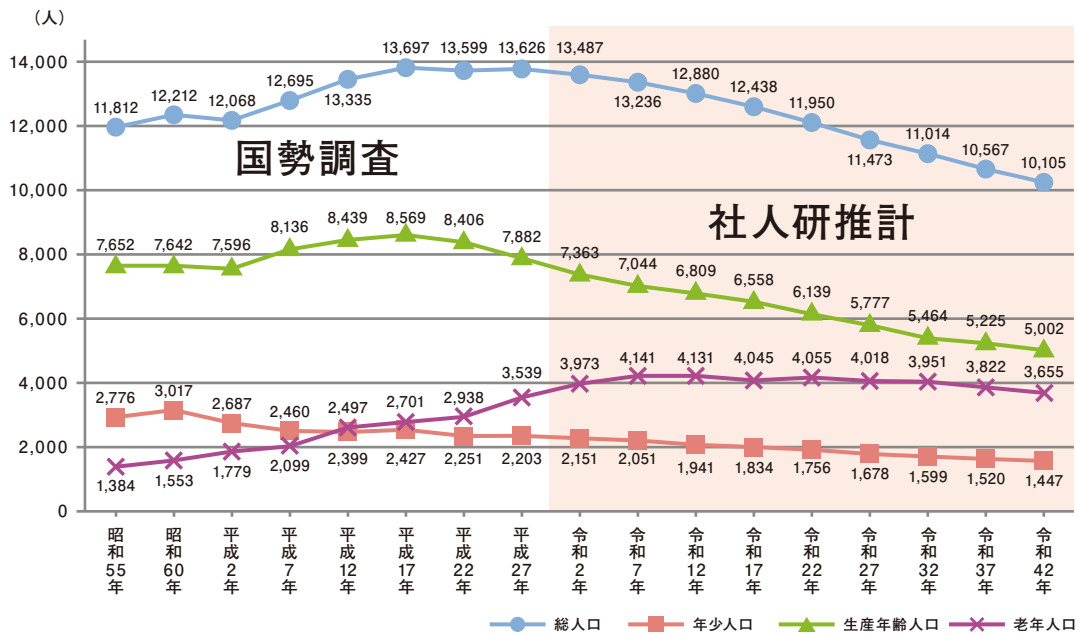
### (1) 総人口の推移

本町の人口は、平成27(2015)年に行われた国勢調査では13,626人となっており、前回調査、平成22(2010)年に比較すると増加傾向となっています。

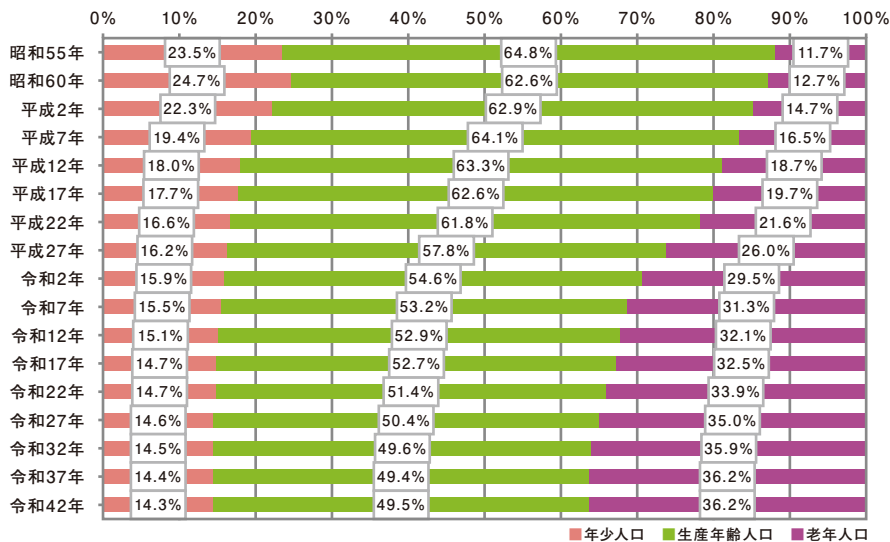
年齢3区分別でみると、国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)による令和2(2020)年以降の将来推計では、老年人口の伸びがやや横ばいから減少傾向に推移することにより、高齢化の進展のスピードは、徐々に緩くなっていくものと予想されます。

総人口・年齢3区分別人口の推移(国勢調査及び社人研推計)

※年齢不詳を除く



年齢3区分別人口割合の推移(国勢調査及び社人研推計)



### Ⅲ 人口ビジョン

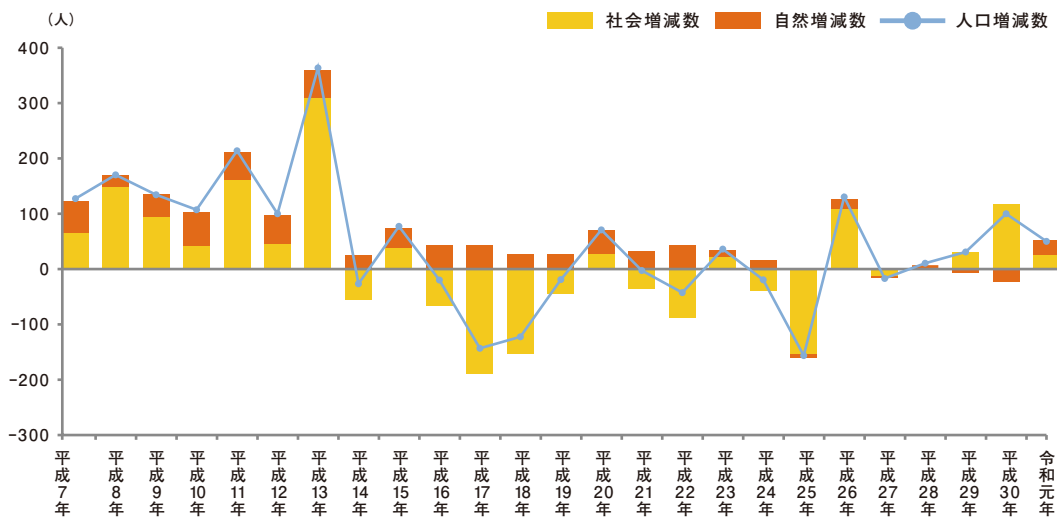
## (2) 人口動態の推移

自然増減については、出生数が死亡数を上回る自然増を維持してきましたが、平成25(2013)年頃から、均衡状態に近づいています。

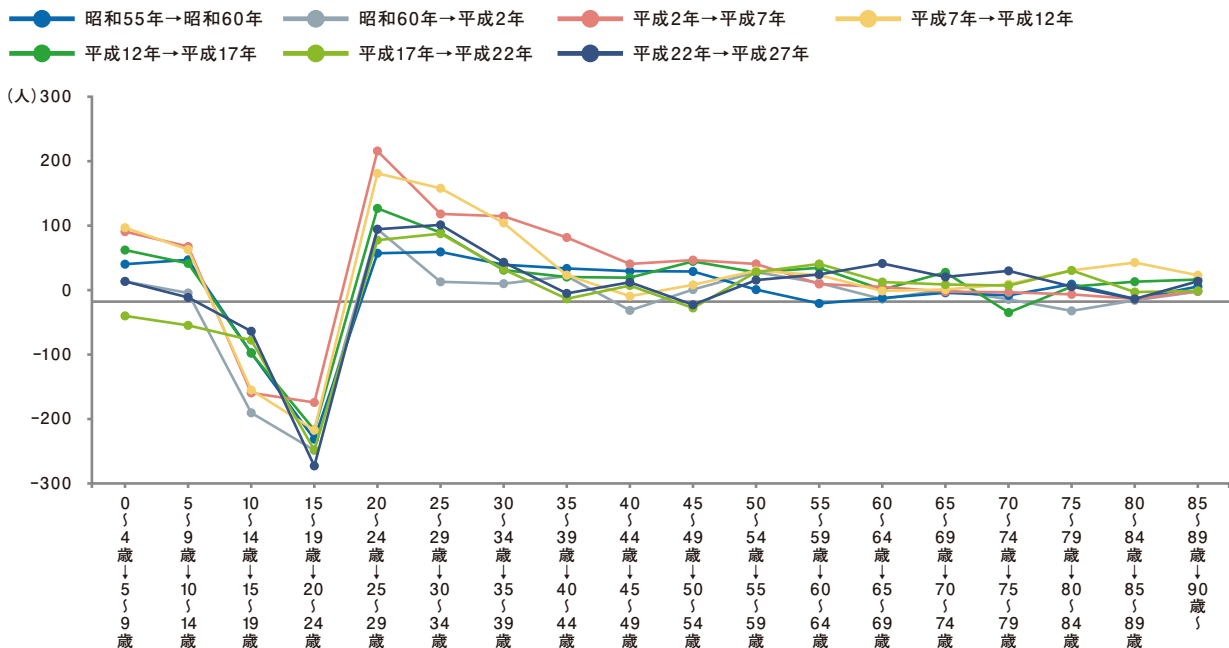
一方で、社会増減については、平成14(2002)年以降、転出数が転入数を上回る社会減で概ね推移してきましたが、平成26(2014)年頃から、徐々に社会増に転じてきています。

社会増減を年齢階級別でみると、10代後半から20代前半の転出数が多く、20代後半から30代の転入数が多くなっています。

人口動態(自然増減・社会増減)の推移(総務省住民基本台帳人口動態調査)



年齢階層別人口移動数の推移(国勢調査)



## 3 人口の将来展望

### (1) 目指すべき将来の方向性

社人研による人口推計によれば、本町の人口は、令和2(2020)年は、減少に転じるとされています。一方で、住民基本台帳人口によると、社人研がその推計の基礎としている平成27(2015)年の国勢調査以降において、人口が増加している状況が分かります。これは佐世保市からの転入などによる社会増に起因するものです。また、町民アンケート調査によれば、町民の約9割が本町を「住みよい」と考えていることが分かります。

今後、なお一層、本町が、町民が住み続けたいと思われるまち、町外から転入をしたいと思われるまちであり続けるために、町の将来像である「暮らしいちばん!住むなら さざ~みんなが輝き、みんなで創るまち~」を理念として、まちづくりを進めていきます。

なお、本ビジョンを踏まえた、本町の地方創生に関する具体的な方向性については、「第6章 総合戦略」の中で示します。

### (2) 人口の将来展望



#### 将来展望の考え方

- 平成27(2015)年に策定した前回の人口ビジョンでは、本町の人口の将来展望について、「令和42(2060)年に総人口11,885人の確保を目指す」としています。  
(平成25(2013)年社人研推計を基本に、①合計特殊出生率を令和2(2020)年以降に2.07、②まちなか町有地への集合住宅の誘導など町独自の取組による社会増(令和7(2025)年までに約800人増)、③人口の移動率を令和2(2020)年までに0.5倍に縮小の3つの考え方の条件を設定)
- 本町では、この前回の人口ビジョンで示した方向性を踏まえ、「佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、平成27(2015)年からの5年間、人口減少対策を実施し、人口の増加が確認されたところです。(令和2(2020)年1月1日現在の住民基本台帳人口は14,013人)
- このように比較的順調に人口が推移していることから、今後も「目指すべき将来の方向性」で示した方向性を踏まえ、各種の施策に取り組み、「10年後の令和12(2030)年に13,900人、40年後の令和42(2060)年に11,900人に留めることを目標とする」こととします。

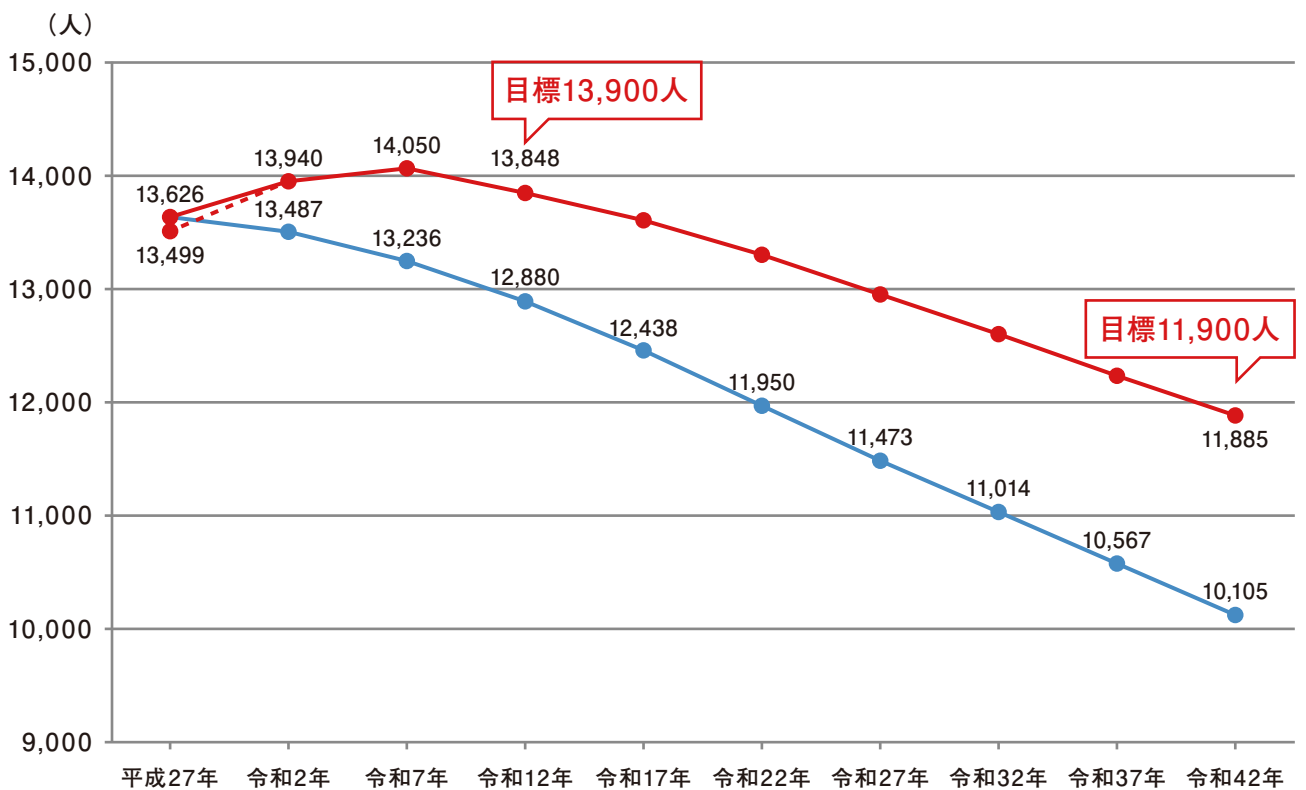
### Ⅲ 人口ビジョン

- なお、この人口を確保するためには、引き続き、①合計特殊出生率を令和2（2020）年以降に2.07とすること、②令和7（2025）年までに、平成27（2015）年から現在までの増加分も含めて、約800人の社会増を実現する必要があります。（平成30（2018）年社人研推計を基本）

#### 将来展望人口

- 本町の将来展望人口は、  
10年後の令和12（2030）年に13,900人  
40年後の令和42（2060）年に11,900人に留めることを目標とします。

#### 将来人口の現状推移と将来展望人口



※令和2年国勢調査の速報値は、13,923人、確定値は、令和3年9月頃に公表予定です。





佐々川沿いの河津桜と菜の花